指揮:
堤俊作
Conductor:Shunsaku Tsutsumi

公益財団法人
そらぷちキッズキャンプ
支援特別企画

スペシャルゲスト:
中丸三千繪
Special guest:Michie Nakamaru

©EMI Music Japan

ロイヤルチェンバーオーケストラ
東京チャリティ特別公演

Program

- タイム・トゥ・セイ・グッバイ
- ニュー・シネマ・パラダイス
- 世界のマーチから「旧友」「ワシントン・ポスト」
- 歌劇「カルメン」序曲
- バレエ組曲「胡桃割り人形」
- 他

管弦楽:ロイヤルチェンバーオーケストラ
Royal Chamber Orchestra

2010年11月29日(月) 開演19:00 (開場18:30)

会場:ゆうぽうと (東京都品川区西五反田8-4-13 TEL03-3490-5111)

全席指定:S席 ¥5,000 A席 ¥4,500 B席 ¥3,500

【主催・お問合せ】ロイヤルチェンバーオーケストラ事務局 03-6231-1911 【特別後援】滝川市
【プレイガイド】コンサートイマジン 03-3235-3777 イープラス http://eplus.jp/sys/main.jsp チケットぴあ(Pコード=121-335)
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 東京芸術劇場チケットサービス 03-5985-1707

RCO特1011-A4AD.indd 1 10.10.17 5:14:32 AM

そらぷちキッズキャンプは日本ではじめての「病気とたたかう子どもたちのための自然体験施設」実現に向けたプロジェクトです

日本には小児がんなどの難病とたたかっている子どもたちが、約20万人いると言われています。しかし、国内には難病児を受け入れることのできる医療施設の整った自然体験施設がなく、子どもたちは自然を体験する機会のないまま闘病生活を送っているのです。
そらぷちキッズキャンプは、難病小児を主たる対象とする自然体験施設の運営に関する事業を行い、難病小児とその家族の「QOL（生活の質）」の向上や、心のケアに寄与することを目的としています。
キャンプでは、難病などの病気とたたかう子どもたちが、自然の中で、安心して、安全に楽しく過ごせるよう、特別に配慮されたキャンプ施設を、そして自然体験プログラム、医師、看護師、ボランティアによる医療的バックアップを提供し、病気の子どもやその家族が、病気のことを忘れ、笑顔で楽しいときを過ごし、「楽しい思い出」「すばらしい仲間」「生きる力」「希望」を得ることを目指しています。

“そらぷち”とはアイヌ語で“滝下る川”という意味でキャンプ地のある北海道滝川市の由来となった言葉です。この「そらぷち」に病気とたたかう子どもたちに夢のキャンプ場「そらぷちキッズキャンプ」を実現させたいのです。この計画は米国の映画俳優ポール・ニューマン氏（故人）が私財を投じて設立したホール・イン・ザ・ウォール・ギャング・キャンプ」をモデルとしています。米国のほかに同様のキャンプがフランス・アイルランド・イタリアなど世界8カ国、12箇所に設置されており、そらぷちキッズキャンプの実現は、日本初はもちろんのことアジア初の施設となることを意味します。

そんな尊い活動の輪を広める支援の事業として、このチャリティコンサートが開催されます。
皆様のあたたかな「こころの声」をぜひ届けませんか?
11月29日、会場でお待ちしています。

Profiye

指揮：堤 俊作 *Conductor：Shunsaku Tsutsumi*

数多くのジャンルでスペシャリストと呼ばれているマエストロで、非常に多彩な才能の持ち主である。桐朋音大にはコントラバスで入学し、在学中から逸材として将来を嘱望されていたが、指揮を齋藤秀雄に師事し、指揮者になる決心をする。世界でも有数の歴史を誇るジュネーヴ国際音楽コンクール指揮部門で1978年に最高位を受賞。巨匠オットーマル・スイットナーに「ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典作品における堤俊作の解釈はすぐれたものである。ヨーロッパで学んだことのない日本人がヨーロッパの古典作品にこのように対処していることは我々にとって脅威ですらある」とまで言わしめた。東京交響楽団、札幌交響楽団、梓室内管弦楽団、静岡交響楽団等、数多くのオーケストラの指揮者、音楽監督を務めてきているが、特に東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団は彼自身が設立し育て上げたオーケストラで、今も桂冠指揮者を務める。牧阿佐美バレエ団、井上バレエ団等の音楽監督を務めるなど、バレエ指揮者としては国内外の各バレエ団からの信頼も厚く、第1人者としての地位を確立している。また、各種協奏曲の指揮者としても世界的に有名で、世界の超一流のソリストたちからも絶大なる支持を得ている。さらにはオペラの指揮者としても若い頃から数多くのオペラを振ってきたが、数年前からイタリアの各種音楽祭や歌劇場から盛んにオファーがかかるようになり、ペルゴレージの「奥様女中」、ヴェルディの「椿姫」、モーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」等を振り、絶賛を博した。日本有数の吹奏楽団、大阪市音楽団で1998年から2002年まで芸術顧問、主席指揮者を務めたことから吹奏楽の世界にも非常に有名である。
現在はロイヤルチェンバーオーケストラの音楽監督を務めるかたわら、飾らない人柄と音楽に対する真摯な姿勢でアマチュアの音楽愛好家からの信頼が厚く、九州大学フィルハーモニーオーケストラ、俊友会など日本全国のオーケストラや合唱団を指導している。後進の育成にも熱心で、多数の優秀な指揮者、コントラバス奏者を輩出してきた。門下生の中には、欧米のオーケストラ奏者として活躍している人材も多く、また、ブザンソンなどの指揮者コンクールの入賞者も数多く輩出している。2006年3月には第1回高松国際ピアノコンクールを音楽監督として大成功へと導いた。そして、2010年3月には第2回が終了したばかりであるが、第2回にして、国内外から注目され、優秀な若い人材を輩出する日本有数のコンクールへと押し上げたのは彼の功績である。
堤の音楽の特徴は、テンポ感が良く明るく明確なリズム、透明感の高い音と絶妙なアンサンブル、楽譜を深く読み込み妥協せずに作曲家の意図に迫ろうとする姿勢などにある。また、バロックから現代ものまで幅広いレパートリーを誇るが、前述のようにバレエやオペラ等、オケピットの中においても実力を発揮するという日本人には珍しい職人肌の面も持ち合わせている。

スペシャルゲスト：中丸 三千繪 *Special guest：Michie Nakamaru*

©EMI Music Japan

桐朋学園大学声楽科卒業。同大学研究科修了。在学中よりN.Y.ザルツブルグに留学。‘86年、小澤征爾指揮、R.シュトラウス『エレクトラ』でデビュー。‘88年ルチアーノ・パヴァロッティ・コンクール優勝。マリア・カニリア・コンクール優勝、フランチェスコ・パオロ・ネリア・コンクール優勝。‘89年『愛の妙薬』でルチアーノ・パヴァロッティと共演し、アメリカ・デビュー。‘90年RAI主催マリア・カラス国際声楽コンクールに優勝。ミラノ・スカラ座でのムーティ、プラシド・ドミンゴ、ホセ・クーラ、ロリン・マゼール、ケント・ナガノ等と共演。‘94年には、ベルサイユ宮殿で、故ダイアナ妃臨 席の下、出演。95年、MODA、Made in Italy賞を受賞。98年より、小児ガンを支援し、天皇皇后両陛下ご臨席のコンサートを行った。メジャーリーグ開幕戦開会式、サンフランシスコ講和条件 締結50周年記念式典（於ワシントン）、日本ダービー、サッカー国際試合などの国際的イベントにおいて日米両国国歌を斉唱。2006年、“イタリア連帯の星勲章”コメンダトーレ章がイタリア大統領より授与。日伊文化交流委員会組織委員、桐朋学園大学特任教授。梅光学院客員教授。

司会：久能 靖 *Announcer：Kuno Yasushi*

管弦楽：ロイヤルチェンバーオーケストラ *Royal Chamber Orchestra*

1987年に皇太子殿下を楽団長として結成された「梓室内管弦楽団」を前身とし、「サイトウキネンオーケストラ」の実力のある若手などを集め、1991年に堤俊作が結成した。メンバーの中には有名なソリストや著名な室内楽グループで活躍する奏者も数多く、非常にスペシャルなオーケストラとして知られている。管弦楽曲の他、オペラ、バレエなども得意とし、日本にはないヨーロッパのオペラハウスの管弦楽団のような楽団。各パートに実力者が揃うが、特に弦楽器の純度が高く色彩感の豊かさ、ハーモニーの美しさ、各楽器間の連携の良さなどは在京のオーケストラの中でも屈指の存在で、時にウィーンフィルのような音色を聞かせてくれる。2005年にはアイルランド、ベルギー、ルクセンブルク、イタリアなど4カ国6都市を公演旅行で廻り、各都市で絶賛を博した。

（財）ロイヤルチェンバーオーケストラHP　http://www.r-c-o-f.or.jp

RCO特1011-A4AD.indd 2　10.10.17 5:14:37 AM